

文化序

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



かん だ あ ぐ り
神田 阿久鯉



かが み の
鏡味 よひ乃



しゅんぶう てい こりゅう
春風亭 小柳



かん だ らん
神田 蘭

◎ 講談って何？①

講談とは、500年の歴史を持つ日本の伝統芸能のひとつで、落語と並んで寄席で楽しむことができる話芸です。

落語も講談もお寺のお坊さんの説法が元で、「楽しい」「笑える」ということに重点を置き、会話形式で進行するのが落語、話を面白く「伝える」ことに重点を置き、説明の入るものが講談です。

落語は「話す」といいますが、講談は「読む」と表現します。特徴を表していますね！

◎ 講談って何？②

赤い毛せんの上に座布団、前には釈台、講師の手には張り扇…。

講師の口から語られるのは、まるで本人がそこにいて見てきたかのような臨場感溢れるストーリー。

古い時代のお話が多いので、古風な言葉遣いや台詞回しもあります。日本講談協会では、小中学生の皆さんにも聞いてもらいたいと思い、親しみやすい講談を目指し工夫してお届けしています。

◎ 寄席のいろいろ

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。今から200年前に常設寄席（定席）が始まりました。

江戸時代には200軒あった寄席ですが、現在では都内に4軒残っています。

寄席では落語や講談の話芸と、色物と呼ばれる『見て楽しめる』ものが次々と登場します。

寄席の一日は太鼓で始まります。

開演の30分前に「一番太鼓」が鳴ります。（ドンドンドントコイ、ドンドンドントコイ）と打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直前には「二番太鼓」が鳴ります。（オタフクコイ、オタフクコイ）と打ちます。着倒とも呼ばれる太鼓でまもなく開演です。出囃子と共に開口一番、前座さんの登場です。その後も仲入り（休憩）の太鼓、トリ（一番最後に出る方）が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ、（デテケ、デテケ、デテケ）と打ち、これで寄席の一日が終わります。

実はこの太鼓、落語家や講師の前座さんが叩いているのです。



お囃子 稲葉 千秋

一、講談 神田 蘭 生徒講談

一、落語 春風亭 小柳

一、落語 春風亭 小柳

仲入り（きゅうけい）

一、太神楽曲芸 鏡味 よひ乃

一、講談 神田 阿久鯉



〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-12-30
芸能花伝舎2階
公益社団法人 落語芸術協会
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com
info@geikyo.com

●公益社団法人 落語芸術協会
公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年10月に日本芸術協会として設立。昭和52年12月に法人許可され社団法人落語芸術協会と改称。
平成23年4月に「公益社団法人 落語芸術協会」と改称。
断家と色物（曲芸・漫才・奇術・紙切り・俗曲等）お囃子を入れ、会員数200名（平成29年現在）の大所帯である。
当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席（落語会）の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。
また、寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。
現在、会長の桂歌丸のもとに演芸関係のリーダー格として位置付けられている。

● 日本講談協会

平成3年に二代目神田山陽が弟子を引き連れ講談協会を脱会、日本講談協会を設立。

二代目山陽は従来の固定観念を捨て改革に臨み、女性の弟子も多く取った。惜しくも2000年に死去したが、その精神を受け継いだ弟子は講談界に留まらず多方面に活躍を続けている。

現在、所属講師は22名。半数以上が公益社団法人落語芸術協会にも所属し、都内各寄席にも多数出演。

その他全国各地での会館や学校で主催される演芸会やイベントに出演し、講談の普及や広報活動に尽力している。



バク助

（落語芸術協会のマスコットキャラクター）